

月刊 インド



Monthly Journal of the Japan-India Association

公益財団法人 日印協会（日印間の政治・経済・文化交流に貢献して 111 年）



〈モディ首相歓迎会 於 憲政記念館〉

2014 年 9 月 2 日
提供：佐伯健三氏

目次

1. 日印関係を特別戦略的パートナーシップに格上げさせたモディ首相の訪日・P. 3
2. モディ首相来日・京都訪問印象記……………P. 6
3. 衝撃の変貌！昔のインドは何処へ行った？……………P. 8
4. インドニュース（2014 年 6-7 月）……………P. 11
5. イベント紹介……………P. 15
6. 新刊書紹介……………P. 17
7. 貿易概況……………P. 18
8. 掲示板……………P. 19

1. 日印関係を特別戦略的パートナーシップに格上げさせたモディ首相の訪日 —大成功であった日印協会・日印友好議連共催の歓迎会— P. M. Modi's Visit upgraded Japan-India Relationship to “Special” Strategic Partnership

公益財団法人日印協会 代表理事・理事長
平林 博



ナレンドラ・モディ首相は、8月30日から9月3日までわが国を公式に訪問した。

歓迎式典(赤坂迎賓館)、天皇陛下への謁見、安倍晋三総理との首脳会談とそれに続く総理主催晩さん会(赤坂迎賓館)、財界との懇談昼食会、主要閣僚や主要野党党首による表敬訪問などの「定番」のほか、日経新聞およびジェトロ共催の講演会、インド人・コミュニティとのレセプション等が行われたが、日印協会が日印友好議員連盟を誘って開催した歓迎会(憲政記念館)にも足を運んでいただいた。

この機会に、日印両国政府は、「戦略的グローバル・パートナーシップ」を格上げし、「特別戦略的グローバル・パートナーシップ」に格上げした。筆者も出席した9月1日夜の安倍総理主催晩餐会の挨拶で、モディ首相は、「特別」という言葉を追加したのは、日本とインドとの間には精神的なつながりが深い点で特別な二国間関係だからだと述懐していた。

今回が特別で異例であったのは、最初に京都に着いたモディ首相を自ら歓迎するために、安倍総理が京都まで行ったことである。その夜は、日本の伝統美術の粋を集めた京都迎賓館においてごく小人数の非公式夕食会を開いて歓待し、翌日は、安倍総理がモディ首相を東寺に案内した。ここで、多少の脱線をお許しいただきたい。

仏教はヒンズー教を改革した宗教であるので兄弟のようなものであるが、ヒンズー教の神々はわが国に来て仏教を守る守護神となった。東寺は、インドに起こった密教・真言宗を日本に広めた弘法大師と縁が深く、特に五重塔が有名であるが、仏教とヒンズー教の関係で注目されるのは、講堂と金堂である。

講堂の中央は須弥山を象徴化した祭壇があり、中央には大日如来を中心とした五体の如来像、向かって右(東方)には五体の菩薩像、左(西方)には五体の明王像が、また、須弥壇の東西端にはそれぞれ梵天・帝釈天像、須弥壇の四隅には四天王像、計21体が弘法大師の構想に沿って安置されている。

また、金堂には、薬師如来と十二神将が安置されている。

如来や菩薩は仏教由来のものであるが、梵天と帝釈天は古代バラモン教それを継いだヒンズー教のブラフマ神(三大神の一人で宇宙創造の神)とインドラ神(雷神)であり、仏教の二大護法善神となった。四天王は、東南西北に位置して如来を守るが、例えば多聞天(別名毘沙門天)はヒンズー教三大神の一人ヴィシュヌ神(宇宙を維持する神)である。

つまり、東寺においては、仏教のほとけとヒンズー教の神々が混然一体となって小さな極楽浄土を作り上げているのである。モディ首相が訪問する寺としては、東寺に勝るものはないのである。筆者も、京都の寺院仏閣の中で最も訪れる価値のあるお寺と考えている。

9月2日午後開催された日印協会と日印友好議連の歓迎会は、会場いっぱいの240名を超える両団体の



〈写真2〉



〈写真3〉



〈写真4〉



The Prime Minister, Shri Narendra Modi reaches out to 99 year old Saichiro Misumi, Netaji's oldest living associate in Japan, in Tokyo, Japan on September 02, 2014.

(出所: Prime Minister of India HP)

ていた溝上富夫元大阪外大ヒンディー語科教授を見て特別に声をかけ、教授からヒンディー語で心のこもった手紙をいただいて感謝していると述べた。

また、堂道秀明 JICA 副会長を見て、大使が在任中にグジャラート州との関係を発展させてくれたことを紹

メンバーが参集した。(写真2)

モディ首相は多少遅れて到着されたが、森喜朗日印協会会長と町村信孝日印友好議員連盟会長、筆者がお迎えした。民主主義を重視するモディ首相が尾崎行雄翁の像に関心を示されたので、筆者からは憲政の神様・尾崎行雄翁について簡単に説明申し上げた。

会場に入り、ひな壇には、モディ首相をはさんで左右に森日印協会会長と町村友好議連会長、さらに両会長の左右に八木駐印大使とワドワ駐日大使が並んだ。

(表紙写真)

ひな壇の前と周辺には、筆者旧知のアジット・ドヴァル国家安全保障補佐官、スジャータ・シン外務次官等の随員と、日印双方の手厚い警備陣が陣取った。

筆者は、司会と両会長の通訳という大役を自らに課したが、通訳についてはひやひやものではあった。

日印協会からは、鈴木修(スズキ会長兼社長)、佐々木幹夫(三菱商事相談役)、坂根正弘(コマツ相談役)、岡素之(住友商事相談役)、檜田松瑩(三井物産会長)の5人の副会長ほか役員、会員が、また、友好議連からは茂木敏光経済産業大臣、石井啓一、桜田義孝の2副会長、武正公一幹事長、松本剛明元外務大臣など30人あまりの国会議員が出席した。

モディ首相は、森会長と町村会長からの歓迎挨拶の後、(写真3、4)ヒンディー語で答辞を述べた。

モディ首相は名字の発音が似ている森会長とは特に親しみを感じており、2000年の訪印でグローバル・パートナーシップを樹立して核実験で冷え込んだ日印関係を立て直し、更にその後も日印協会会長として貢献してきた功績を高く評価した。森会長が日印協会は110年有余の間日印関係に貢献してきたことに触れたので、長年にわたる日印協会の功績に大変感謝していると述べてくれた。昭和13年から日印協会に関係してきた三角佐一郎協会顧問が参列していたが、それを見たモディ首相は、壇上から特に親愛の情を示し敬意を表した。出席していた三角顧問は当年99歳、足が多少不自由になられたがまだかくしゃくとしておられる日印関係の生き字引である。

また、モディ首相はヒンディー語で挨拶や演説をする決めており、ヒンディー語を重視しているが、参列し

介して謝意を表した。

日印友好議連については、これまでの議連の貢献を高く評価するとともに、今後はデリーだけでなく各地を訪問していただきたいこと、若手国会議員同士の交流を深めること、更に各州の州議会との交流の必要性に言及した。

こうしてみると、モディ首相は人情と気遣いのあふれた政治家であり、常に感謝の気持ちを忘れない方とお見受けした。

そのあと、森・町村両会長より、記念品として兜飾りを贈呈した。筆者は、兜はかつてサムライが戦闘で使用したもので、強さと勇気の象徴であり、モディ首相にふさわしいものと考えて選んだと付言した。(写真5)

次いで、日印友好議連の副会長と幹事長、日印協会の副会長、齋木昭隆外務次官ほかの来賓のお名前を読み上げ、順次ひな壇に登段いただき、モディ首相にご挨拶いただいた。



その後モディ首相には、筆者による解説つきで、協会が保有する日印関係の最も重要な局面を撮影した写真パネルをご覧いただいた。その途中、モディ首相は、座っておられた三角顧問の席で、自らもしゃがんで同じ目線で親しく声をかけた。モディ首相は、スピーチの中でも言及したが、あらためて三角顧問に対し、ビデオチームを日本に派遣し、三角顧問が知っておられる日印関係の歴史につき話を伺う機会をいただきたいとしてオラル・ヒストリー作成に意欲を示した。突然の要請に対し三角顧問は多少戸惑った様であるが、これを受け入れたので、首相は満足げであった。

全てのプログラムを終えたモディ首相一行は、参会者の盛大な拍手に送られて退席し、玄関において森、町村両会長と筆者が、再会を約してお見送りした。

2014年9月3日

※文中の写真1～5提供；佐伯健三氏

2. モディ首相来日・京都訪問印象記 Indian Report in Kyoto

大阪大学法学部国際公共政策学科 2 年 大阪大学国際問題研究会

北條 真莉紗



The Prime Minister, Shri Narendra Modi and the Prime Minister of Japan, Mr. Shinzo Abe visiting the Toji temple, in Kyoto, Japan on August 31, 2014.

(出所: Prime Minister of India HP)



The Prime Minister, Shri Narendra Modi in conversation with Rev. Raitei Arima of the Kinkaku-ji, (Golden Pavilion) Temple, in Kyoto, Japan on August 31, 2014.

(出所: Prime Minister of India HP)

■はじめに

この度、モディ首相御一行の来日に際し、最初の訪問地が京都に決まったと知ったのは8月26日のことでした。急な決定でしたので、少しでも歓迎の力になれたらと私たち大阪大学の学生・卒業生19名は、27日から31日にかけて京都訪問のお手伝いをさせていただくことになりました。主にインド側の担当者と宿泊先・観光先の日本人との間の通訳を担当し、何にも代えがたい経験となりました。

光栄にも『月刊インド』への寄稿の機会をいただきましたので、学生を代表して体験の模様を綴らせていただきます。

学生の私たちにこのような貴重な機会が舞い込んでまいりましたのは、日印協会会員である学生のことを日頃から気にかけてくださっているインドの在大阪マハジャン総領事のご配慮によるものですが、私たちも、普段から日印協会の行事参加を通して学生としては接することが出来ない方々とお会いする機会に恵まれてきたために、突然の要請に適応できたのだと思います。平林理事長をはじめとする協会の方々の日頃のご指導ご鞭撻に心より謝意を表します。

■学生から見た公賓歓迎行事の裏側

26日、総領事から連絡があり、その夜のうちに学生有志が集まりました。京都・東山のウェスティン都ホテルにて大急ぎで準備が始まり、首相をお迎えする当日まで、会談の準備・観光プランの作成・警備や救急の準備など、インド政府の方々のサポートをさせていただきました。何もかも初めての経験でハプニングも

多々ありましたが、常に自分に出来ることを探して必要に応じて動くことを繰り返すなかで、第一線では忠実な、先々までを見据えた行動が求められるのだということを学びました。

首相来日当日は、ご到着までの間メディアの方々への通訳やホテルの方々との打ち合わせ等を担当し、御一行が到着されてからは、今回の学生有志の代表である井上と私は首相お二方のエスコートをさせていただきました。最大限の敬意を払わなければならないお二方へのエスコートに不慣れな英語も相まって緊張の連続でしたが、お二方とも一国の代表の風格をお持ちでとても落ち着いておられ、優しい方でいらっしゃるという言葉の端々から感じられました。特に、学生の行き届かないエスコートでも快く対応してくださったことに感動しました。

■モディ首相の印象

京都迎賓館における安倍首相主催の晩餐を終えられたモディ首相がホテルへ到着されたとき、ホテルのロビーは緊張感の迸る雰囲気になっていました。首相はヒンディー民族衣装に身を包み、ゆっくりと歩かれていたことが印象的でした。記者や一般の方に囲まれても紳士的な対応をなさっておられました。

モディ首相はヒンディー語への強い思い入れがあると見られ、安倍首相をはじめ日本側の要人とのすべての会談においてヒンディー語を用いておられました。それはおそらく母国のヒンディー語とその歴史ある文化に対する強い誇りがあるからだということが、首相の立ち居振る舞いから感じられました。その証拠に、首相を間近で感じることでできたインド人の方々は非常に幸せそうな表情をされていました。モディ首相の圧倒的人気は、祖国を遠く離れた日本でも同胞の間に明確に見受けられたのです。12億人以上を代表しながらこれほど支持されるリーダーはなかなか現れないであろうと思います。その方がインド亜大陸を除く初の公式訪問先として日本を選ばれたという事実から、日本にとっても誇らしい訪問だったということは明らかです。安倍首相とモディ首相との間で、これまでの日印戦略的グローバル・パートナーシップに「特別」の語を加えて、一段と関係を強化する決意を明らかにされたことは、日印関係の新たな里程碑として歴史にしっかりと刻まれました。これが実現したのは、今まで草の根の活動を111年間にわたって行ってきた日印協会という存在があったからこそであると実感しました。

■インド訪問を控えた今の気持ち

ハプニングは何度もありましたが、先輩方や社会人の方の対応を見ていて、自信をもってはっきり自分の考えや与えられた情報を伝えることが、インド人とのコミュニケーションにおいて大切なのだと感じました。学生ながらに公賓来日のお手伝いをさせていただき、インド人の話す英語に耳が慣れてきたこの状態で、明日から私たち自身もインドのデリーやバラナシにスタディーツアーに行つてまいります。多方面の方々からのお力添えを受けて訪問計画が進み、実際に現地でこれまで勉強してきた日印関係についてさらに深く知識を吸収させていただける環境に深謝しつつ、万全を期して行つてまいります。帰国後に平林理事長先生をは



じめとする日印協会の皆様へ、滞在中の見聞を通じて感じたことや、日印関係に関する新たな着想などをご報告させていただきたいと思ひます。

2014年9月5日

3. 衝撃の変貌!! 昔のインドは何処へ行った? Indian Report

公益財団法人日印協会常務理事兼事務局長
インドの浦島太郎 笹田 勝義

『インドは変わった。これがインドかと思う』と人は言う。
今回のインド出張は、7月26日から8月3日まで、メジャーな都市(ムンバイ、バンガロール、チェンナイ、デリー)だけ、強行軍で回ってきた。悠々と時が流れるインドで、僅か5~6年で、どれほど変わったのか、聊かの疑問を持ちつつ、異常なまでに暑い7月の終わりにインドへ向けて成田を旅立った。



〈久しぶりの懐かしいインドの風景〉

〈見違える程のインディラ・ガンディー空港〉

デリーの空港に無事着陸し、入国検査を通して先ず驚いたのは、空港ビルの立派さ。以前は、国際空港とはお世辞にも言えなかったが、今や世界の大空港と比べて遜色のない、素晴らしいものであった。勿論外国人も多くいたが、インド人、しかも、明らかに裕福そうに見える人たちが闊歩している。この様変わりは何であろうか。確かに、出発前に立派になったと聞かされていたが、これ程の変貌は大きく予想を超えていた。

インドの高級ホテルは相当に豪奢で、宿泊費も高いが、今回はインターネットで予約したホテル(シーズンオフのため、極めて安かった)ではあったが、十分に満足するものであった。ホテル乱立もあり、過当競争なのであろう。

ムンバイでは、早速市中を見て歩いた。今の季節、インドは雨期で雨模様であった。日曜日のこともあり、街中は人で溢れ、昔と変わらぬ風景であったが、異なっただのはカップルが多かったことだ。ムンバイは昔からジープ姿の若者が多い街だが、今様の服装の若者カップルが幸せそうに、雨の中、仲良く一つ傘の下で語り合っている。親が決める結婚が多い中、このような変調はやはり、インドは変わりつつあるなど思った次第である。更に輪をかけて驚いたことは、有名なショッピングモールに行った時だ。モールの巨大さと豪華さに加え、世界の有名ブランドショップが立並び、品数の多さ、品質の良さ。値段も立派だが、「そこがインドなのか?」と本当に見間違ふほどである(下の写真3枚)。最も印象深いのは客筋だ。若い、いかにも有能なインド人が夫婦、家族連れで、ショッピングを楽しんでいる。改めて、インド政府が長年望んでいた中間層の台頭の実態を目の当たりにしたものだ。



昔の経験からすると、どの都市に行っても、空港を出てから車で1〜1.5時間位掛かって、街中のホテルへの到着である。道々、大渋滞の生出す最大の元凶である、飼い主のいる野良牛、インド人特有の運転の粗さ、我さきに突っ込む習性が故に交差点では二進も三進も往かない愚かさ、加えて交差点では障害者や乳飲子を抱えての物乞いで車中の人間を苛立たせ、そうこうしているうちに1, 2時間経って、疲れ切ってホテル到着へ到着したものだ。バンガロールでも、このようないつものパターンを想像していた。ところが、何と云うことであろう。空港を出て殆ど車で混雑しない高速道路をまっしぐらに走り、料金所ゲートもあつという間に通過し、信号と交通ルール、マナーを守り(?)、牛もいない、物乞いもない街中を通って、予約していたホテルへ到着した。僅か30分であった。これが道路インフラの進んでいないインドの現状なのであろうかと信じられない気持ちを、先ず身をもって実感した。



訪問した大都市では、インド政府が進める外資導入の大きな現れである工業団地を多く見て回った(上の写真3枚)。共通した特徴は、緑豊かな広大な土地にゆったりと工場を建て、豊富な人材を抱えている(工場内は見えていないので想像の域を出ない)。これから進出するであろう外資に対して十分な土地供給も準備していると思われる。工場労働者もどこから集まるのか兎に角豊かだ。しかも若い。まさにインドの労働人口構成(きれいなピラミッド型)を容易に頭に浮かべることができる。優秀で、若く、豊富な労働力の提供がインド政府の外資に対する謳い文句だ。特に新しい政権を構築したモディ首相に対する期待度は大きい。色々の方に新政権への期待度を聞いてみたが、一様に右肩上がりと表現している。政治の成果は、12億人の人口を抱えるインドでは即座に現れない。少なくとも3年の期間は必要との意見が多かった。モディ首相は近々日本を訪れ、日本からの投資を促し、一方でインドからは優秀な労働力を提供する“ウィンウィン”の関係を強調することであろう。既にインドでは、全国に大工業団地を準備し、インド産ハードウェアの生産をし始めている。既に満杯となった団地も多く、次第に大都市から離れた個所に移らざるを得ない状況のようだ。

このように、新しい工業化によって、インド人の生活レベルも大いに向上することであろう。日に日にインド人の社会は変わっていくのが、確かに目に見えるようだ。



一方で、懐かしい光景も目にした。インドの上下水道はまだまだ整えられていないが、例えば一寸雨が降るとたちどころに道路が冠水する。あちらこちらで水のためにエンジンが止まったままの車が道に転がっている。この懐かしき風景に遭遇できた。あーやっぱりここはインドだと何となく微笑んだものだ。

それにしても、何と日本レストランの多くなったことか！筆者が住んでいた頃は日本レストランが殆どなかった。日本食材が手に入らなかったことによるのだが、今や食材の豊富さに加え、空輸による日本からの直輸入(生もの)、日本食に欠かせぬ調味料など、日本人の生活には不安は少なくなっている。ただ、例えば醤油等の輸入に制限がかかっている由で、企業の方は解決に奔走されていた。

この度、デリーで大変お世話になったレストランオーナーの中島啓二(元住友商事インド社長で、インド経済界におけるコンサルタント会社経営が本業；次ページ写真左端)様に、経営されている日本レストランにてご馳走になった。このレストランの謳い文句は、有機食材を使った、飽きの来ない食事提供がモットーで日

替わりのメニューが出される。本当に飽きの来ない味付けで、満足するものであったし、雰囲気も日本らしさがあちらこちらに散りばめられている。

「インドは暑い所」との思い込みが強い。筆者の経験上、インド、特にデリーの夏は、息が詰まるほどの気温の高さである。7月下旬に成田を飛び立ったが、日本の暑さは例年以上に高かった。インドがこれよりさらに高い温度と湿度であれば、疲れ切ってしまうだろうと多少心配していた。しかし、南インドでは、日中20度ほどで、寒いくらいの気温であった。これが灼熱のインドかと思う位の心地よさであった。帰国後、筆者を一番に襲ったのが、「日本とは何と暑い国か!」の感じで、涼しいインドへ取って返したい思いであった。



今回のインド出張については、モディ首相が日本を公式訪問するとの話がある中、歓迎会の準備など多忙が予想されたが、お許しを頂いて、メジャーな都市（ムンバイ、バンガロール、チェンナイ、デリー）だけ、強行軍で回ってきた。

話には「インドは変わった」と聞いていたが、どの程度なのか疑問を持ちつつ、インド入りした。インド特有のにおいを感じながら飛行機を降りてきたが、前述のように、ターミナルビルの変貌には度肝を抜かされた。入ることすら躊躇するトイレは、ピッカピカの近代的トイレだ。街々は、近代化された都市に生まれ変わっている。モダンな若者や裕福そうな階層があちこちに見られた。新しい工業団地、遅れているとは言うものの道路インフラの改善、悪評高い停電の頻度と時間の低減、給水に時間制限ある水道システムの改善など、目覚ましい発展であったと素直に感じ、自分の記憶とのギャップの大きさに我ながら驚いている。

筆者は1996年から2002年までインドに駐在経験を持つが、この時代(前述で、『昔』と表現している)から見ると、正に隔世の感であった。生活レベルの向上は、インド人には歓迎すべきことであり、これからも益々発展していくことであろう。

しかしながら、経済的に中間層の台頭が際立つが、一方で人口の半分以上を占める下層階級との経済格差が目立つことが多少懸念される。長い目で見て、ますます開く格差をどのように捉えるのか、不満が出ないのかなど、解消すべき課題も多い筈である。

かくの如く、今や、筆者はインドの浦島太郎となってしまった。日印協会に籍を置く限り、最新のインド事情通にならなければならないと心に決めて、インド出張を終えた。

4. インドニュース (2014 年 8 月)

News from India

I. 内政

8 月 5 日

- 5 日付インディアン・エクスプレス紙によれば、7 月 30 日にネーチャル・シン・サンドゥ国家安全保障副補佐官が辞職したことを受け、アーヴィンド・グプタ防衛研究分析研究所所長が同色に就任した。

メモ:

グプタ氏は、979 年にインド外務省入省後、ロンドン、アンカラ、モスクワで勤務し、1999－2007 年までは国家安全保障委員会事務局局長を務めた。また同氏はロシア語に堪能で、国内外の安全保障を専門とし、核軍縮に関する論文も執筆。今回の決定は、ドゥバル国家安全保障補佐官がカシミール、アフガニスタン及びパキスタンの安全保障に関する専門家であることを考慮し、外交政策により広く通じた人物を副補佐官に据えたいという政府の考えによるものとされる。

8 月 6 日

- 6 日付ヒンドゥスタン・タイムズ(HT)紙によれば、少年法改正法案が閣議決定された。同法案は ①強姦や殺人等の 7 年以上の刑期に相当する犯罪を犯した 16－18 歳の者は、成人と同様に通常の刑事裁判で裁かれる、②①の場合、その者は最高 5 年間の服役に処す、③教育機関等に勤務する者が再犯した場合は解雇される、④同性カップルは養子を引き取ることができない、等の事項が盛り込まれている。

メモ:

今回の少年法改正の動きには、2012 年末のデリー女子学生集団強姦事件の際に、未成年の犯人 1 名が少年法で裁かれたことに対する国民からの強い批判が背景にあるとされる。

8 月 6 日

- 6 日付タイムズ・オブ・インディア (TOI) 紙他によれば、インドの国営放送のドゥールダルシヤンは、諸外国におけるサテライト放映実施のため、ドイツの国営放送である Deutsche Welle と覚書を結んだ。

メモ:

今後、ドゥールダルシヤンは、Deutsche Welle が所有するサテライト・プラットフォームを利用し、ヨーロッパ各国、中央アジア、西アジア及び北アフリカのアラブ諸国における放映が可能となり、新たに 1 億 2 千万人の視聴者を獲得する見込みである。

8 月 7 日

- インド大統領府は、カマラ・ミゾラム州知事が職を退き、マニプール州知事がミゾラム州知事を一時的に兼任する旨発表した。

メモ:

カマラ知事は、グジャラート州知事時代に公用機の不正使用を多数回に渡り行っていたことが問題となっており、任期を 4 ヶ月残して罷免されることとなった。

8 月 9 日

- インド人民党 (BJP) の発表によれば、9 日、デリーで BJP 全国評議会が開催され、モディ首相を始め、シャール・BJP 総裁等が出席した。モディ首相は演説を行い、前政権が長年見過ごしてきた貧困層を重視している旨を強調するとともに、バジパイ政権時の核実験であれ、WTO におけるインド政府の立場であれ、いずれもインドの国益にかなったものであると発言した。併せて、モディ首相は、特定のコミュニティからの支持に依存した政治を行い、社会構造に不和をもたらしていると述べ、コングレスを批判した。

8月12日

- 12日付TOI紙によれば、モディ首相は、12日、J&K州を訪問し、レーやカルギルを視察した。

8月13日

- 13日付TOI紙によれば、13日、インド下院において、全インド・アンナ・ドラビダ進歩連盟(AIADMK)のタンビドゥライ議員が、全会一致で、下院副議長に選出された。

メモ:

タンビドゥライ議員は、1985年から1989年まで、下院副議長を務めた経験がある。

8月15日

- インド首相府の発表によれば、8月15日の独立記念日に際し、モディ首相は、デリーのレッドフォードにて演説を行った。演説は1時間にわたり、国内の団結・一体性、ガバナンス、女性、能力開発、製造業や衛生について述べられた。また、計画委員会について、開発の中心は各州の政府であり、現在の計画委員会が古いシステムとなっているとし、新しい組織や新しい考えを持った機関に置き換える予定であると発言した。



The Prime Minister, Shri Narendra Modi addressing the Nation on the occasion of 68th Independence Day from the ramparts of Red Fort, in Delhi on August 15, 2014.

(出所: Prime Minister of India HP)

8月14日

- 14日、インド予算国会が閉幕した。今国会では、 कांग्रेस党が要求していた下院野党議員団長のポストが空席のまま閉幕となった。

8月16日

- 17日付TOI紙他によれば、16日、モディ首相は、日帰りでマハーラーシュトラ州(ムンバイ、ライガード県、ソラプール)を訪問した。

メモ:

今次のモディ首相のマハーラーシュトラ州訪問は、同州における次期州下院議会選挙(本年10月実施予定)を見越したものと見られる。

8月19日

- 19日付各紙によれば、モディ首相は、ハリヤナ州を訪問し、ソランキ州知事及びフーダ州首相等と共に、インド道路庁主催の道路開通式典に出席した。同式典での演説の中で、モディ首相は、同州では開発促進と汚職追放が重要であるとし、同州において新政府が成立した暁には、それらが強く促進されるだろうと述べた。

8月25日

- 25日付TOI紙他は、ビハール州、マディヤ・プラデーシュ州、カルナタカ州及びパンジャブ州での州議会議員補欠選挙(21日投票)の結果を報じているところ以下のとおり。

【ビハール州】

BJP 4議席、

民族ジャナタ・ダル(RJD) 3議席

ジャナタ・ダル(統一派)(JD(U)) 2議席

कांग्रेस党 1議席

(※なお、ビハール州においては、BJPは人民の力党(LJP)と、また、 कांग्रेस党はRJD及びJD(U)と連立を組んでいる)

【マディヤ・プラデーシュ州】

BJP 2議席

कांग्रेस党 1議席

【カルナタカ州】

BJP 1 議席

कांग्रेस党 2 議席

【パンジャブ州】

कांग्रेस党 1 議席

シロマニ・アカリ・ダル(SAD) 1 議席

Ⅱ. 経済

8月6日

- 6日付HT紙によれば、閣議において、防衛分野におけるFDIの上限を、現行の26%から49%に引き上げること及び官民連携で実施する高速鉄道、郊外鉄道回廊及び指定貨物鉄道事業におけるFDI上限を100%に引き上げることが決定された。

Ⅲ. 外交

7月30日～8月1日

- インド外務省発表によれば、ケリー米国防長官が7月30日から8月1日の日程でインドを訪問した。7月31日、同国防長官とスワラージ外相は第4回戦略対話を実施し、テロリズム、輸出管理レジーム、経済、科学技術、エネルギー、民生用原子力協定、宇宙、人材育成、戦略的パートナーシップ、気候変動、国連改革及び地域情勢等の各分野に関して意見交換を行った。

8月8日～9日

- インド外務省発表によれば、8月8日から9日の2日間の日程で、ヘーゲル米国防長官が訪印した。8日、同国防長官は、モディ首相を表敬し、イラク情勢、ポスト2014のアフガニスタン情勢、アジア太平洋地域の平和と安定及び二国間の戦略的パートナーシップにおける防衛関係の重要性等について議論した。

メモ:

報道によれば、モディ首相は、9月23日の週後半に予定されている国連総会に出席し、その後ワシントンで印米首脳会談を行う予定。

8月10日

- スワラージ外相と岸田外相は、ミャンマーで開催された第12回ASEAN関連外相会合に際し、日印外相会談を行った。両外相は、日印外相間戦略対話の継続、次官級「2+2」及び日米印対話の更なる強化、両国間の経済関係及び国際場裡における協力の強化につき協議した。

8月18日

- インド外務省報道官は、在インド・パキスタン高等弁務官がカシミール分離主義勢力Hurriyat(自由)指導者と面会したことを受けて、25日に予定されていたイスラマバードでの印パ外務次官協議を中止する旨発表した。

8月24日～27日

- インド外務省によれば、クレグ英副首相が、ビジネス面での関係強化のため、40名のビジネス代表団を率いて、デイビー・エネルギー・気候変動相とともに、インドを訪問した。

Ⅳ. 日印関係

8月15日

- インド外務省は、モディ首相が、8月31日から9月3日にかけて、日本を公賓として訪問し、天皇陛下に拝謁する他、安倍総理と年次首脳会談を開催する旨発表した。

今月の注目点： モディ政権の外交政策

インド内外から注目を集めた、モディ首相の初の外遊先は、近隣国のブータンであった(訪問は6月15・16日)。ブータンを選択した理由として、モディ首相は、「インド・ブータン両国は、地政学的、歴史的、文化的に裏付けられた特別な関係を有しており、最初の訪問国としてブータンを選んだのは極めて自然なことである。」と述べている。

その後、モディ首相は、予算国会開幕を挟んで、8月3・4日の2日間、インドの首相としては17年ぶりに、二国間会談のためにネパールを訪問した。同国への訪問では、モディ首相は、外国の招待客として初めて、ネパール国会とカトマンズ市議会との合同議会で演説を行った。その演説の中で、モディ首相は、ネパールのインフラ開発に対する10億ドルの融資を発表した他、水力発電、インフラ、宇宙技術及び農業の各分野におけるネパールへの協力を約束した。モディ首相とコイラ・ネパール首相による首脳会談では、1950年に締結された印ネパール友好条約を見直すことで合意した。こうした近隣国への訪問によって、南アジア地域の友好関係を強調し、外交デビューを果たしたモディ首相は、近隣国外への二国間訪問地として、インドと深いつながりを持つ日本を選択することになる。

なお、スワラージ外相も、8月15から17日にかけて、インド・シンガポール外交関係樹立50周年記念行事の開幕のため、シンガポールを訪問し、スマート・シティ・プロジェクトを含む、インドのインフラ・プロジェクトへのシンガポールの投資を求めた。また、8月24から26日には、同外相は、ベトナムを訪問し、外相会談を行った他、第3回インドASEANシンクタンク会合の開会式に出席した。また、東南アジア及び東アジアに駐在する19名の大使を集めて、ハノイで大使会議を行った。このほか、8月23日、V・K・シン北東部開発閣外相(外務閣外相及び海外居住インド人閣外相を兼任)が、バングラデシュを訪問し、ハシナ首相と会談し、ティースタ河水共有協定の早期署名につき議論するなど、インドの外交政策の柱であるルック・イースト政策を確実に推し進めている。



The Prime Minister, Shri Narendra Modi and the Prime Minister of Japan, Mr. Shinzo Abe, at the Restricted Meeting, at Akasaka Palace, in Tokyo, Japan on September 01, 2014.

(出所; Prime Minister of India HP)



The Emperor of Japan, His Majesty Akihito with the Prime Minister, Shri Narendra Modi, in Tokyo, Japan on September 02, 2014.

(出所; Prime Minister of India HP)

5. イベント紹介 Japan-India Events

=◇ 最近のイベント ◇=

◆ネタジ・スバス・チャンドラ・ボース氏の 70 回忌追善法要

今年も 8 月 18 日、1945 年ボース氏が台湾で飛行機事故により亡くなった命日の午後 1 時から、70 回忌追善法要が、杉並区東高円寺の蓮光寺で、望月教善住職様の主宰により執り行われました。

今年は法要が生憎お盆休み明けの月曜日となりましたが、祭壇には、例年通り当協会の森喜朗会長からの生花が供えられ、インド独立に多大な貢献をし、日本との絆も深めた同氏の功績を偲び、約 100 名の方々が参列、インドの方々も 20 名以上参列されました。ただ残念なことは、今年にはインド大使館からの参加はお一人もありませんでした。

法要の最後に、ご住職より、ボース氏のご遺骨は先々代の望月教榮様以来、蓮光寺が大切にお預かりしてきた。インドから然るべき形でお迎えがこられるまでは大切にお預かりする旨のご挨拶がありました。

戦前、英国の植民地であったインドでは、独立を力で勝ち取ろうとするボース氏等の活動に対し、非暴力と非服従による独立達成を掲げたガンディー氏率いる国民会議派主流派による対立がありました。その政治的な対立と思惑から、独立後もボース氏のインド独立に果たした貢献を無視、また過小評価する時期が長く続きました。結果的に、インドでも若い世代ではボース氏の独立のための活動を知らない世代が増え、日本にきてからボース氏の偉業や、日本の支援運動を知ったというインド人が多くいます。

それでも、昨年 国民会議派の政治家ではありますが、氏と同じベンガル出身の ムカジー氏が大統領に就任し、インド独立にボース氏の果たした功績を広く国民にアピールするなど変化の兆しがあります。また今年 5 月の総選挙でインド人民党が大勝、モディ首相による新政権がスタートしました。このような流れのなかで、12 年前、やはりインド人民党のバジパイ首相が蓮光寺を訪問されたように、早い機会にインドの首相や大統領が公式に蓮光寺に参拝頂き、故人の遺徳を偲び、また今日まで遺骨を大切にお守りしてきた蓮光寺様や関係者に改めて謝意を表される機会が来ることを期待します。



=◇ 今後のイベント ◇=

◆ナマステ☆インディア 2014

今年のナマステ・インディアは、9 月 20・21 日に開催されます。会場内の特設テント(エア インディア セミナー ハウス)にて、日印協会による講演会を行います。皆様お誘いあわせのうえ、ご参加下さい。また、例年通り、協会ブースもごございますので、お立ち寄り下さい。

日時: 2014 年 9 月 20 日(土)～21 日(日)

9 月 20 日(土) 10:00～20:00 / 9 月 21 日(日) 10:00～19:30

会場: 東京都代々木公園 イベント広場 野外ステージ

東京メトロ 千代田線 代々木公園駅・明治神宮駅 歩 5 分

入場: 無料

共催: ナマステ・インディア実行委員会 / NPO 法人日印交流を盛り上げる会 / インド大使館 / インド政府観光局

URL <http://www.indofestival.com/>

問合: ナマステ・インディア実行委員会事務局 ☎025-752-2396

～協会主催講演会～

会場: ナマステ・インド会場内 エア インディア セミナー ハウス

★9月20日(土)

13:00～14:30 『女性から見た、感じたインドー輝ける場所を探してー』

講師: 山下 由紀子 (エッセイスト&フォトグラファー)

14:30～16:00 『ときめきのインド世界遺産』

講師: 平林 博 (公益財団法人日印協会代表理事・理事長)

★9月21日(日)

13:00～14:30 『インド映画の楽しみ方ー歌物語としてのインド映画ー』

講師: 高倉 嘉男 (インド映画研究家)

14:30～16:00 インドの神様と日本の神仏ー宇宙に最も近いヒマラヤの神々ー

講師: 山田 真美 (作家・日印芸術研究所言語センター長・日印協会理事・明治学院大学特命教授)

※なお、デング熱の蚊の退治のために会場が使えなくなる可能性がありますので、開催については上記主催者ホームページ等で、各自が確認して下さい。

◆地球の宝物 インドのトラとゾウをまもる 2014

NP0 法人トラ・ゾウ保護基金(JTEF)の活動地でもあるインドの様々な魅力を感じて下さい。

日 時: 2013 年 9 月 23 日(火・祝) 14:30～16:00

会 場: インド大使館インド文化センター

東京都千代田区九段南 2-2-11 東京メトロ 東西線・半蔵門線 九段下駅 2 番出口 徒歩 3 分

プログラム: 『森の踊り、森の音楽。』出演者: 国広和毅、アンジェラ・ラーガ、河崎純、小林武文

『トラとゾウを守るために』出演者: 見城美枝子

入 場: 無料(要予約 〆切 9/22)

主 催: 認定 NP0 法人トラ・ゾウ保護基金 URL <http://www.jtef.jp/>

☎ 03-3595-8088 FAX 03-3595-8090 E-mail hogokikin@jtef.jp

問合・予約: 主催に同じ (予約が無い方は、入場できませんので、必ずご予約下さい)

◆いざ 古事記—講談とインド舞踊 DE 「古事記」を読み踊り

FujiGanga 舞踊賞(2014年2月にインド・ケララ州にて、丸橋広実のソロ舞踊公演「古事記」に対し、FujiGanga 印日協会より特別に贈られた賞)の受賞記念公演です。

日 時: 2014 年 10 月 11 日(土) 18:30～ (開場 18:00)

会 場: なかの ZERO 小ホール 東京都中野区中野 2-9-7 ☎ 03-5340-5000(代)

JR 中央線・東京メトロ東西線 中野駅南口 徒歩 8 分

入 場: 指定席 当日 4,500 円/前売り 4,000 円 自由席 当日 4,000 円/前売り 3,500 円

※中野区在住在勤の方・及び学生の方 自由席 3,000 円

※日印協会会員は前売りに限り、自由席・指定席共に 500 円割引

主 催: 日本講和塾・ワールドダンス愛好会

問合先: ケララ企画

☎&Fax 042-574-8217 (Mobile) 080-3013-0924 E-mail: keralakikaku@gmail.com

◆日本インド学生会議 第18期 開催

学生という立場を生かした交流を通じての日本・インド双方の相互理解を目的とした学生の団体による、日本インド学生会議が開催されます。今年は、日本開催、10月3日(金)にインドメンバーが到着し、4日に開会式を行い、15日(火)にメンバーは帰国します。分科会では、主に環境・福祉・教育の3つのテーマからグループごとにディスカッションやフィールドワークを通して、理解や知識を深めていきます。

◆インディア・メーラー 2014

“～関西から発信！インドの魅力を知ろう！印日交流イベント～”をテーマに、今年も神戸メリケンパークでインディア・メーラー 2014 を開催します。今年も Bollywood 乱舞参加者を募集しています。皆様、是非ご参加下さい。

日 時: 2014年10月11日(土)～13日(祝・月)

★Pre-Event プレイイベント(前夜祭) 10/11(土) 15:00-20:00

★Event インディア・メーラー2013(本番) 10/12(日)10:00-20:00 10/13(祝・月)10:00-19:00

会 場: 神戸メリケンパーク 兵庫県神戸市中央区波止場町 阪神電車 元町駅 徒歩13分

入 場: 無料

主催・問合せ: インディア・メーラー実行委員会 URL <http://indiamela.so-good.jp/>

大阪市北区中津6-1-10

☎ 06-6451-7994 FAX 06-6451-7731 E-mail india@happy.odn.ne.jp

◆ディワリ・イン 横浜

今年もインドの光の祭り“Diwali”を横浜で開催します。多くの方のご来場をお待ちしています。

日 時: 2014年10月18日(土)・19日(日) 10:00～19:00

会 場: 山下公園お祭り広場

神奈川県横浜市中区山下町 みなとみらい線 元町中華街駅 徒歩4分

入 場: 無料

主催・問合せ: ディワリ・イン・ヨコハマ2014実行委員会 / 公益社団法人横浜印度商協会

URL <http://diwaliyokohama.org/index.html>

神奈川県横浜市中区山下町24-2-306 ☎ 045-662-1905

6. 新刊書紹介 Books Review

§ 『アジア動向年報 2014』



編集: アジア経済研究所

発行: アジア経済研究所

価格: 6,300円+税

ISBN 978-4-258-01014-1 C0002

アジア経済研究所の定番本、アジア諸国を国別に分析した年報の今年度版です。的確な分析には定評があります。インドについては、近藤則夫・太田仁志両氏による執筆です。

7. 日印貿易概況(2014年第1四半期-前年との比較)

Trade statistics between Japan & India (Jan-Mar)

(単位：100万円)

輸 出 総 額	2013年1～3月 第1・四半期	2014年1～3月 第1・四半期	輸 入 総 額	2013年1～3月 第1・四半期	2014年1～3月 第1・四半期
(日本 → インド)	218,575	203,427	(インド → 日本)	165,568	178,556
食 料 品	98	117	食 料 品	25,802	16,252
原 料 品	4,213	3,666	魚介類	6,551	7,628
鉱 物 性 燃 料	6,837	8,135	(えび)	4,794	4,711
化 学 製 品	22,710	28,352	肉 類	-	-
有機化合物	8,722	10,533	穀物類	76	177
医薬品	261	330	野菜	71	68
プラスチック	7,641	9,299	果実	1,442	1,741
原 料 別 製 品	55,897	49,819	原 料 品	16,976	14,339
鉄鋼	39,515	31,969	木材	47	33
非鉄金属	1,922	3,156	非鉄金属鉱	2,866	2,337
金属製品	6,088	6,565	鉄鉱石	7,243	5,807
織物用糸・繊維製品	2,268	2,579	大豆	-	-
非金属鉱物製品	2,166	2,491	鉱 物 性 燃 料	63,389	67,544
ゴム製品	3,378	2,553	原油及び粗油	-	-
紙類・紙製品	545	527	石油製品	62,206	67,544
一 般 機 械	66,557	59,426	(ナフサ等)	62,179	67,539
原動機	10,416	12,085	石炭	-	-
電算機類(含周辺機器)	576	530	化 学 製 品	16,954	23,756
電算機類の部分品	1,144	1,080	有機化合物	10,583	15,827
金属加工機械	17,256	11,112	医薬品	2,080	2,293
ポンプ・遠心分離器	7,307	6,198	原 料 別 製 品	19,494	29,299
建設用・鉱山用機械	1,206	1,772	鉄鋼原料製品	5,221	7,286
荷役機械	3,518	1,801	非鉄金属	328	1,028
加熱用・冷却用機器	3,691	1,417	金属製品	512	830
繊維機械	4,308	5,624	織物用糸・繊維製品	4,099	5,819
ベアリング	2,079	1,957	ダイヤモンド加工品	8,174	12,426
電 気 機 器	34,962	26,483	貴石及び半貴石加工品	263	2,654
半導体等電子部品	4,256	2,482	その他非金属鉱物製品	409	13,486
(I C)	1,760	1,284	木製品等(除家具)	51	35
映像機器	1,684	2,018	一 般 機 械	3,394	4,317
(映像記録・再生機器)	1,602	1,917	原動機	925	1,030
(テレビ受像機)	82	101	電算機類(含周辺機器)	55	160
音響機器	46	40	電算機類の部分品	103	124
音響・映像機器の部分品	130	138	電 気 機 器	3,604	5,082
重電機器	5,403	3,153	半導体等電子部品	536	599
通信機	490	612	(I C)	22	30
電気計測機器	7,818	6,277	音響映像機器(含部品)	3	56
電気回路等の機器	8,252	5,159	(映像記録・再生機器)	-	-
電池	93	181	重電機器	203	313
輸 送 用 機 器	13,465	11,614	通信機	215	260
自動車	413	83	電気計測機器	684	1,318
(乗用車)	385	75	輸送用機器	2,067	3,193
(バス・トラック)	27	8	自動車	130	376
自動車の部分品	12,028	10,619	自動車の部分品	1,534	2,344
二輪自動車	56	112	航空機類	11	8
船舶	-	-	そ の 他	13,892	14,652
そ の 他	13,835	15,817	科学光学機器	188	427
科学光学機器	3,632	4,278	衣類・同付属品	8,510	9,544
写真用・映画用材料	1,154	920	家具	229	311
記録媒体(含記録済)	520	487	バッグ類	1,277	1,556

“0”は表示単位に満たないもの、“-”はデータの無いもの

資料：公益財団法人日本関税協会『外国貿易概況』『日本貿易月表』

8. 掲示板 Notice

〈次回の『月刊インド』の発送日〉

次回発送は2014年10月10日(金)を予定しております。催事チラシの封入をお考えの方は、日程をご確認のうえ事務局までご連絡下さい。チラシを封入する際には、当該催事の協会会員に対する割引等特典の配慮をお願いしております。チラシ印刷の前にご一考下さい。

〈編集後記〉

今回のモディ首相の訪日については、マスコミでもすいぶん取り上げられたように思います。政治的な事だけでなく、京都での観光の様子や小学校を訪問される姿も、テレビで拝見できました。

モディ首相と安倍首相が、表千家の東京稽古場でお茶を楽しまれた際には、正座を気遣う安倍首相に「ヨガをやっているから大丈夫」と言うモディ首相のお言葉が、注目を集めていました。しかし、「ヨガをやっている」は、モディ首相にとって、かなり本気の発言ではないでしょうか。

昨年の5月に、アーメダバードにインド国内初のヨガ専門の大学(Lakulish Yoga University)が開校されるにあたり、当時州首相だったモディ首相は、ヨガはインドが世界に誇る文化とスピーチされたと記憶しています。同大学では、専門的なヨガの先生を育成します。

モディ首相にとって、ヨガは外貨獲得のための輸出産業、あのお茶席での一言は、トップセールスの一つと考えるべきでしょう。いずれ前述の大学出身のヨガの先生方が、日本にやって来るに違いありません。今回の発言は布石です。日本の文化を研究し尽くして織田信長の様にお茶席を政治利用するあたり、流石というべきです。

と、熱く語る編集子に、知人は「ただのインド・ジョークだってばっ!! 話を広げ過ぎ」と一言。そうだと、モディ首相がヨガのポーズを決めているところ、見たいと思いませんか? (記 渡邊恭子)



入会随時受付中



1903年、大隈重信、澁澤榮一らによって創設された日印協会は、これまで日印の相互理解の促進を目的として、両国の友好親善に関する事業を行ってきました。両国の友好関係を更に深める為にも、協会会員の獲得は重要な課題であると考えています。

インドに興味のあるお知り合いの方がいらっしゃいましたら、是非日印協会をアピールして下さい。ご希望により、当協会の活動に関する諸資料をお送りいたします。日印協会の活動に賛同して頂ける多くの法人会員・個人会員のご入会をお待ちしております。

☆年会費：個人 6,000 円/口
学生 3,000 円/口
一般法人会員 100,000 円/口
特別法人会員 150,000 円/口

☆入会金 個人 2,000 円
学生 1,000 円
法人 5,000 円
(一般法人、特別法人会員共に)



本誌に掲載致します投稿等は、執筆者のご見解・ご意見であり、
当協会の見解を反映するものではありませんので、念のため申し添えます。

月刊インド Vol. 111 No. 7 (2014年9月12日発行) 発行者 平林 博 編集者 笹田 勝義
発行所 公益財団法人 日印協会
〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町2-1-14 スズコービル2階
Tel: 03-5640-7604 Fax: 03-5640-1576 E-mail: partner@japan-india.com
ホームページ: <http://www.japan-india.com/>

